

情報ネット後志

NO. 10 2013年 6月
発行：後志農業改良普及センター

地域の話

平成24年度に成果の上がった活動
農業者や組織の活動紹介



作物横断的な営農支援システムの再構築

所長 金光 優

今年1月に中央農試から農業センサスを用いて「農業・農村の動向予測」が出されました。これは現在の年齢別生産人口や戸数、経営面積等から地域毎の10年・15年後の動向を正確に予測したものです。後志管内の販売農家戸数は2010年を100とした指数で10年後は72に減少すると予測されています。当然、生産人口も減少し労働力不足も深刻化すると思われます。作業受委託、コントラクター、集落営農等の作物横断的な支援システムの検討と再構築を農業者の皆さんと連携し推進する必要があると思われます。

「よろしくお願いま～す！」 ～蘭越町研修農場がスタート！～

担当：本所 地域第一係

「やっと苗が着いたぞ！」・・・5月22日、研修農場に待望のトマト苗が到着しました。

蘭越町では、今年度からトマトの「新規参入者」を対象とした研修プロジェクトが始まりました。当事業は町外からの4戸を募集・選考し、2年間の研修プログラム終了後、町内で夢のトマト生産者を目指すものです。おもな研修プログラムとして、研修農場ハウス（8棟）を拠点にした実践研修、定期的な普及センターによる現地講習会や地域の農家研修等を予定し、1年目の今年は「トマト栽培の基礎」、2年目は「その他作物」の技術も習得する内容となっています。

「よろしくお願いま～す」という4名の大きな熱意に、周囲も新しい風を感じて、地域農業発展の可能性を期待しています。



蘭越町研修農場



普及センターによる講習会



4名の研修生

平成 24 年度に成果が上がった活動

「ニューフェース『きたかむい』の安定生産に向けた取り組み」（倶知安町）」

担当：本所 調整係

1 活動の背景

倶知安町は、全道有数の食用ばれいしょの産地で、男爵薯を中心とした品種が作付されています。

ジャガイモシストセンチュウの発生地帯である当地区では、抵抗性品種の導入が進み、最近では、多収で変形が少なく、良食味である「きたかむい」の導入が始まっています。

2 品種特性を理解して、栽培改善に取り組む

導入の始まった「きたかむい」ですが、安定生産のためには、いくつかの短所を克服する必要がありました。

このため、倶知安町内で「きたかむい」生産している7戸の生産者に右のようなポイントを示し、栽培改善に取り組んでいただきました。

きたかむい栽培改善のポイント！



浴光催芽の励行(発芽が遅いため)

コンテナの段数は3段以内

コンテナを上下入れ替える

施肥量を減らす(倒伏しやすいため)

N施肥量上限 10kg/10a

「男爵薯」より密植栽培にする

(大玉になりやすいため)

栽植密度は 72 ~ 75 × 27 ~ 30(cm)

光をむらなく当てます

しっかりした芽を育てます

浴光催芽のポイント

入れ替えすると手間はかかるけど、萌芽が揃うからやるよ！



3 成果

平成 24 年は萌芽期以降の少雨による萌芽の不揃いがありましたが、最終的には減肥しても男爵薯並の収量を確保できました。

このような取り組みを「きたかむい」を生産する他の生産者にも伝え、今後とも「きたかむい」の安定生産に向けた支援を進めます。

「きたかむい」栽培改善の取り組み結果

窒素施肥	栽植密度	規格内収量
(男爵薯比較)		
減肥 6戸	密植 3戸	3,500kg/10a 以上 農家 4戸
慣行並 1戸	慣行並 4戸	

「稲わらでハウス土壤の改善だ！」(共和町)

担当：本所 地域第二係

共和町では、水稻の副産物として出される稲わらの処理とメロンやすいかのハウスの土作りが課題になっていました。そこで、稲わらの有効活用による土づくりを生産者と関係機関とともに実証活動を行いながら検討しました。

まず始めに、稲わらの収集とハウスへのすき込みを提案し実証を行いました。その結果、稲わらをそのままハウスにすき込んでもメロンの収量に影響が無いことが分かりました。

表 メロンの収量調査結果
(A氏ほ場、品種：G08)

項目/区	平均1果重(kg)	収量(kg/10a)	収量比
簡易堆肥	1.68	2,217	101
稲わら	1.70	2,253	103
慣行	1.63	2,197	100



かん水はいつもと
ほぼ同じだったよ。

実証農家 A さん

秋に稲わらを散布
すると、春の土壤
の乾きが悪いな

実証農家 B さん



次に、稲わらのすき込みに抵抗がある人のために、稲わら簡易堆肥を考案しました。その結果、耕起作業やマルチ作業への影響も少なく、稲わらが利用しやすくなりました。

実証農家 C さん

時間のある時に稲わらを収集・堆積したらいいんだよなあ。



- 1 堆積予定の場所に古ビニールを敷く。
- 2 稲刈り後、稲わらを収集し、1~1.5mの高さで堆積する。
- 3 秋に硫安(12kg/t)を添加し、越冬させる。
- 4 翌年の春に1回切り返し、あとは野ざらしにする。
- 5 堆積後、1年で完成。

稲わら簡易堆肥の作り方

そして、稲わらの施用を継続した結果、土壤硬度は全般的に軟らかくなり、土壤物理性は改善されました。

稲わらを入れるようになってから、生育差がなくなって、5~6玉中心に揃うようになったよ。ほ場が変化していることを実感しているよ。

実証農家 D さん

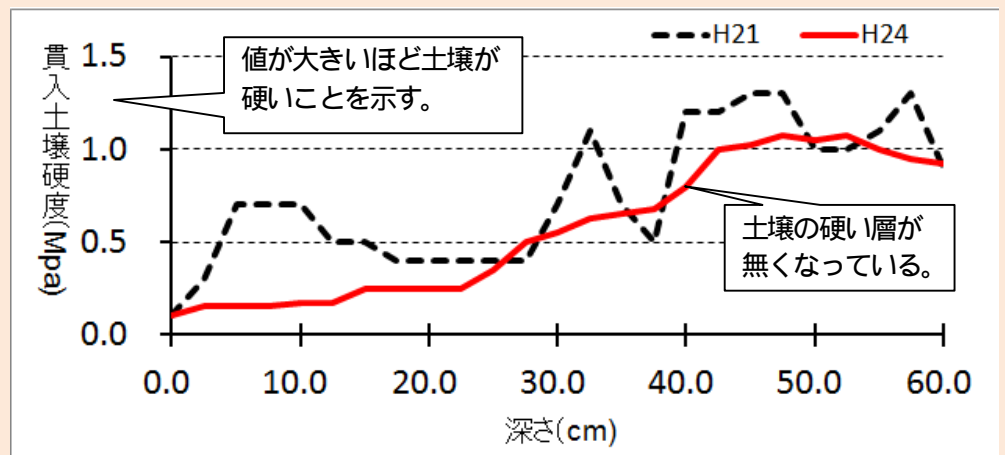


図 稲わらを連用したほ場の土壤深別硬度(Dさんほ場)

普及センターでは、この事例を活用して、稲わらの有効活用によるハウスの土づくりを地域全体に波及させたいと考えております。

「農と食を楽しむ会 “果夢里（かむり）” の活動 ～余市町果樹のPR～」

担当：北後志支所 地域第一係

余市町の果樹農家の女性たち7人が「農と食を楽しむ会 “果夢里（かむり）” 」というグループをつくり、活動を始めてから14年が経過しました。

グループ名「果夢里」は、「果樹に携わって、夢に向かって進んでいく、里（さと）」を意味しておりますが、COME ON（カムオン）＝「みんないっしょい！」にもかけています。

これまで、余市の果樹をPRしたいとの思いを持って、自慢の果物を使った料理講習会や町内で実施する「ワインを楽しむ会」での出品、料理レシピの製作販売などで余市産フルーツの活用術を広げてきました。



ワインに合う料理を出品
（ワインを楽しむ会）



自慢の料理～ほんの一部です

「フルーツバロア」（左） 「プルーんいなり」（右）



自主出版レシピを持って 全員集合！！

最近の活動として、果物を使った加工品の研究開発と試験販売に取り組んでいます。主な商品は、ジャム（様々な果実）、シロップ、果夢里ソース（焼き肉のたれ風）、フリーズドライプルーン、焼き菓子などです。一部の商品は、町内の「道の駅」で販売されていますが、さらに多くの意見を聞きたいとの思いから、今年3月に札幌駅地下歩行空間で試験販売を行い、消費者のニーズや嗜好性などを調査しました。

このような活動を通して、余市町果樹のPRをしながら、売れる商品作りを目指して、いきいきと活動しています。

また、関係機関もこの会を、“今、余市町で気運が高まっている6次産業化に向けた動きの第一歩”として捉えており、役場・農協・普及センターも連携しながら活動を進めています。



地下歩行空間で試験販売
立ち止まる人が沢山



手作り感満載の陳列風景

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭 57-1
TEL 0136-22-1072
FAX 0136-22-4744
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内 309
TEL 0136-72-3161
FAX 0136-72-3456
shiribeshi-nokai.minami1@pref.hokkaido.lg.jp

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1
TEL 0135-22-5135
FAX 0135-22-5987
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp